令和８年度（2026 年度）　事業報告書

社会教育士

「社会教育実践型研修会」

（文部科学省委託：社会教育士フォローアップ研修）

事業の内容

１　日　時

（１）令和８年（2026 年）８月 31 日（月）19:00～21:00 〔オンライン（Zoom）〕

（２）令和８年（2026 年）９月９日（水） 19:00～21:00 〔オンライン（Zoom）〕

（３）令和８年（2026 年）９月 12 日（土）10:00～16:45 〔対面（札幌市）〕

（４）令和８年（2026 年）10 月１日（木） 19:00～21:00〔オンライン（Zoom）〕

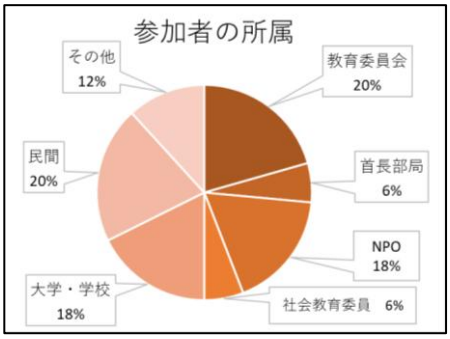
２　会場　（３）のみ　道民活動センタービル「かでる２・７」８階　820 研修室

３　参加者　34 名

内訳　（１）27 名＋オンデマンド３名（２）28 名＋オンデマンド４名

（３）26 名　（４）20 名

社会教育士称号取得者　29 名



Ⅰ　プログラム

18:45　19:00　　20:30　　21:00

8/31（月）1日目	開会	ガイダンス	ユニットⅠ（オンライン）2h	
			＜講義＞「地域に求められる社会教育士の役割の再確認」 大正大学教授　牧野　篤　氏	＜スタートアップワークショップ＞「もちより対話（たいはなし）①」
9/9（水）2日目	受付		ユニットⅡ（オンライン）2h	
			＜講義＞「社会教育士に必要な学習支援方法」 国立青少年教育振興機構　青木　康太朗　氏	＜スタートアップワークショップ＞「もちより対話（たいはなし）②」

9:30　10:00　　11:30　　12:30　13:30　　16:30　16:45

9/12（土）3日目	受付	ユニットⅢ（対面）3h		昼休憩	ユニットⅣ（対面）3h	講評
		＜パネルトーク＞「活動事例から社会教育士の可能性を探る」 モデレーター　大正大学　牧野　篤　氏 パネラー（社会教育士）　中標津町　橋田　徳光　氏 石狩市　新屋　彩　氏 札幌市　道高　真理　氏	＜ワークショップ＞社会教育士の可能性を見える化 ファシリテーター：北海道教育庁社会教育主事		＜ワークショップ＞ 地域課題の解決に向け「私がしたい」活動の企画案 ファシリテーター：北海道教育庁社会教育主事	

18:45　19:00　　20:30　　21:00

10/1（木）4日目	受付	ユニットⅤ（オンライン）2h	閉会
		＜ワークショップ＞ ユニットⅣの活動を具現化するためのネットワーク構築	＜まとめ＞ 社会教育士の可能性を見える化

＜ユニットⅠ＞　社会教育士がどのように誕生したのか、その背景にあった議論などを踏まえ、地域に必要な社会教育士の役割について、再確認することができました。ワークショップでは、グループに分かれてそれぞれの活動を共有し、共通した成果や課題を見つけることができました。
＜ユニットⅡ＞　社会教育主事講習「生涯学習支援論」の発展的な内容として、演習を交えながら学ぶことができました。実際的な地域住民への支援方法を学び、社会教育士のスキルアップにつながりました。
＜ユニットⅢ＞　パネルトークでは、3名のパネラーのそれぞれの立場から「社会教育士の可能性」について、事例を交えて議論を交わしました。それらを踏まえ、ワークショップでは、個人でさらに考えを深めました。
＜ユニットⅣ＞　事前課題で、参加者の住んでいる地域課題を整理した上で、自身が実施したい企画を検討しました。その際、意図的に居住地の近い参加者同士のグループとすることで、今後の活動のためのネットワークを形成できるようにしました。実際に対面で一緒に活動することにより、より深く学び合うことができました。
＜ユニットⅤ＞　ユニットⅣから約3週間の中で、実際に実施可能な企画となるようステークホルダーを整理しました。企画を発表する中で、「面白そう」「ぜひ一緒にやってみたい」など、他の参加者から声がありました。最後は、振り返りプログラムとして、「社会教育士の可能性とは」というテーマで、一人ずつ決意表明をしながら、今後の活動に向け意欲を高めることができました。

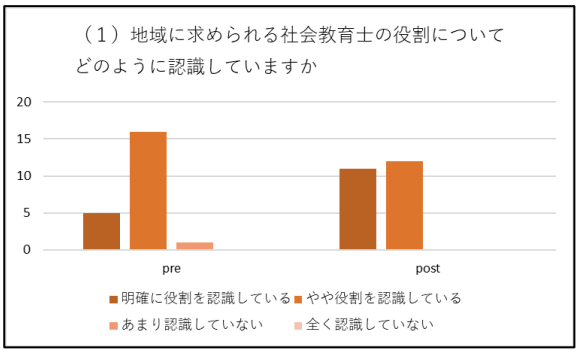
Ⅱ　アンケート結果

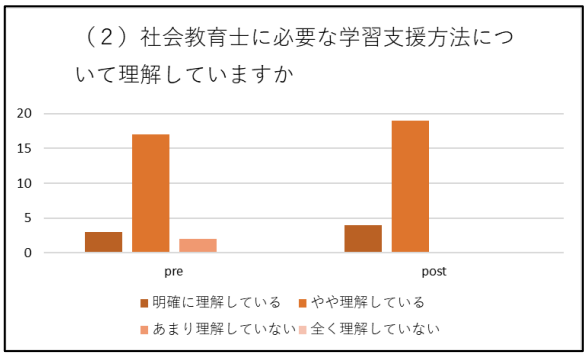
本研修では、研修前（Pre）と研修後（Post）の前後でアンケートを実施し、参加者の変容を比較しました。

「地域に求められる社会教育士の役割についてどのように認識していますか」という質問については、研修前は「明確に理解している」と回答した方が 22.7%であったのに対し、研修後には 47.8%と上昇しました。「あまり理解していない」と回答した方は、0名となり、研修を通して、社会教育士の役割について、あいまいだったところが、具体的に理解が深まったと考えられます。

また、「社会教育士に必要な学習支援方法について理解していますか」という質問については、大きな変化がなかったものの、「あまり理解していない」と回答した方が研修前の2人から0名となったことにより、研修を通して、理解が進んだと考えられます。

以上のことから、4日間の研修を通して、参加者は、社会教育士の役割を認識しつつ、活動の支援者として具体的な方策について、理解が深まったことが分かりました。





Ⅲ　参加者の声

- 異動があり、社会教育の心を失いかけていましたが、土台はここにあると再認識させられました。良い刺激になりました。
- 来年また話ができるネタを持って、挑みたいと思います。
- これまで、パネルディスカッションの運営には何度も携わらせていただいていますが、自身がパネラーになるのは初めてのことで、大変貴重な機会をいただきました。
- 社会教育士は、誰とでも接点をもち、学習者への支援をすることができると思います。
- 一人の社会教育士の小さな働きかけが、誰かの学びや行動につながり、それがまた別の人へと広がっていく。その積み重ねが、地域や社会そのものを少しずつ変えていくのではないかと思うと、社会教育士という役割には、とても大きな可能性があると感じています。



Ⅳ　担当者からひとこと

今回は、多くの方が参加しやすいようオンラインを活用した研修については、夜間の開催としました。ただ、実施日が多かったため、全ての日程に参加する負担は大きかったところですが、研修の中で検討した企画を実際に実施するといった動きもありました。今後も社会教育士をフォローアップできるよう研修機会はもとより内容も充実させていきたいと考えています。

